

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 久居農林高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		少人数教育を生かし、地域に根ざした専門高校を目指します ・「農業」「家庭」の専門性を生かし、地域社会を担う将来のスペシャリストを育成します ・「生物」「環境」「生活」の情報発信基地として、地域に貢献します
(2)	育みたい 児童生徒像	一人ひとりが主体となって活動し、社会貢献に意欲的に取り組み、自己の成長を実感しながら、将来の地域を担いかつ地域のリーダーとなる意欲を持った生徒
	ありたい 教職員像	各担当教科の専門性を高めるとともに、授業形態や授業内容等の工夫・改善を行い生徒の成長に喜びを感じ、充実感を持って業務に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要望・期待	○生徒 わかりやすい授業、安心安全で楽しく過ごせる学校、自己の存在が実感できる学校、進路希望の実現 ○保護者 子どもを成長させてくれる信頼できる学校、進路希望の実現、職業観・勤労観および基本的な生活マナーの定着 ○地域住民 地域に開かれた学校、地域を担いかつリードする人材を育てる学校 基本的な生活マナーの定着	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	○保護者 学力定着、進路希望実現、卒業後のケア 生徒が安心・安全に学べる環境 ○地域住民・産業界 教育資源の活用、知識や技能・意欲を持った生徒の育成、基礎学力 ○近隣保・幼・小・中・高校等 教育資源の活用、連携の強化	○保護者 生活指導等への理解と協力、学校行事への参加、生徒の基本的な生活習慣の確立 ○地域住民・産業界 教育方針等の理解、学校経営への協力と参画 ○近隣保・幼・小・中・高校等 教育方針等の理解と協力、連携事業の強化

### ○ 学習指導の充実

「生徒が主体となる授業の実践」に取り組んだ。実施回数を成果指標に掲げた「わくわく農林塾」は、予定を上回る回数の実施であった。この取り組みは、地域と学校が一体となり、久居農林高校の強みを活かし、地域の教育を担いつつ、生徒の主体的な学びを引き出し、学校の活性化にも資する優れた取り組みである。「わくわく農林塾」を通して「成長できた」と感じる生徒が75%以上という成果指標を掲げ実践したが、年度末の生徒アンケートでは、「80%」という良好な結果が得られた。

本年度は、本校の授業に対して「授業が分かりやすい」と回答する生徒を70%以上とする目標を立てた。その結果、年度末アンケートでは、「授業満足度」が1年生79%、2年生84%、3年生81%と、高い数値を示した。こうした数値が良好なあったことは素晴らしいと高く評価できる。しかし、上記においても「成長できた」あるいは「授業が分かりやすい」と答えていない生徒が、少数であるが在る事実がある。これは、本校の教育を受けても成長が実感できなかつたり、不満を感じたりした生徒がいるということである。このような生徒がどのような思いを持っているのか。どうすれば、改善できるのか。アンケート結果等を職員で共有し改善策を練る取り組みがなされているものの、より一層、「マイナス回答」の生徒の実態や思いに寄り添った教育実践を期待したい。

### ○ キャリア教育の充実

進路ガイダンスの充実に対して、年度当初は満足度85%を目指す目標に掲げた。年度末のアンケートでは、生徒の満足度は95%であった。目標を10ポイントも上回る結果が得られた。本校の進路指導において、すべての生徒の進路実現がなされたことは、何よりの成果だといえる。しかし、それにとどまるものではない。生徒が自身の人生行路を見つめ、主体的に進路選択ができるよう、キャリア教育が充実している点が素晴らしいといえる。具体的には、進路ガイダンスやインターンシップ、現場見学会、出前授業、講演会、面接・履歴書指導などの取組が充実している。本年度は、労働市場の人手不足の後押しがあるものの、就職希望生徒の多くを地元の優良企業に就職させることが出来た。卒業後も、職場定着をサポートするなど、きめ細かい指導がなされている。進学においても、多種の大学・短大・専門学校に生徒は進んでいった。次年度は景気動向が危ぶまれているが、取り組みを継続・発展することにより乗り切ってもらいたい。

### ○ 生徒指導の充実

生徒指導部が中心となり、規則正しい生活習慣の確立のため、生徒への身だしなみ指導や遅刻指導に力が注がれている。これは生活指導に留まらず、生徒一人一人の生きる力の涵養を図っている姿でもある。厳しく指導するだけでなく、教員が生徒にきめ細かい声掛けを行い、生徒は、ルールや時間を守ることが、自らの成長につながることを理解している。近隣の小学校・中学校の児童・生徒と比べても、「本校の高校生が一番気持ち良い挨拶ができる」という評価が聞かれた。これは、生徒会による「朝の挨拶運動」等の取り組みの成果であり、「声を掛け合う」という本校の実践によるところが大きいと考えられる。

次年度も、家庭との連携や進路指導の側面からも生徒を支援し、取り組みを継続してもらいたい。

### ○ 保健管理の充実

検診受診率100%を達することができた。これは、保健部と生徒、保護者、担任の4者が緊密に連携し、健康への高い意識を共有することができたことの顕れだといつてよい。保健室には、年間1500件を超える来室がある。数が多いことは、生徒からの信頼が厚く、カウンセリングや発達障害支援、性教育などを充実させてきたことの顕れである。学校におけるセーフティー・ネットとしての重要な役割を担っている。次年度以降も、取り組みを継続してもらいたい。

### ○ 学校生活アンケート

学校生活アンケートでは、上級学年ほど「安心」「目標をもった学習・活動」「総合満足度」が高くなる傾向が見られる。好ましいことである。

### ○ 学校運営

教員の資質向上のための研修会が充実し、分掌や学年がチームワークを持った連携が行われている。新聞報道される取り組みも多々あり、ホームページも充実し、情報発信に努めている。久居農林高校を志願する中学校生徒数は、概ね良好である。

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○生徒が主体となった地域貢献活動 各コースがそれぞれの特色を活かした「わくわく農林塾」の活動はマスコミにたびたび取り上げられ、地域の理解が広がるなか、生徒たちは自信を持ち、意欲的に取り組むようになってきている。</p> <p>○勤労観・職業観の確立 「インターンシップ」「卒業生に聞く会」「緑風デー」などの取り組みを進めると共に、進路指導部、担任、学科、コースが連携し、きめ細かな進路指導を行った結果、就職内定100%を継続して達成している。今後は、全ての教育活動をキャリア教育の視点で整理し、1年次より組織的・系統的なキャリア教育を推進し、3年間でしっかりと職業観や勤労観を確立させることが重要である。</p> <p>○部活動 全国大会、東海大会等に出場し活躍している部活動もある。学校全体で活性化に取り組む必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○少人数コース制 「農業」「家庭」の専門性を高め、生徒のニーズにあった活性化を図ってきた。本校の最大の特徴である「少人数コース制」についてその成果と課題を教職員が情報共有しあい、効果を最大限生かすような教育内容、指導方法になっていくことが重要である。また、今後減少していく中学生のなか、学科（コース）の在り方を検討することで、より魅力のある学習内容にしていくことも大切である。何よりも三重県で活躍する将来の人材育成を担っていることは本校の大きな特徴である。</p> <p>○組織的な指導体制 個人の能力だけに頼らず「目指す学校像」実現のため、生徒指導や進路指導など組織的に指導する体制が整ってきている。今後、分掌や学科・コースを超えての連携やさらに教職員同士の意思疎通を行い、組織として動く学校としたい。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自ら学ぼうとする意欲を高めるため、自らが課題を設定し解決する学習活動を推進する。</li> <li>・生徒の確かな学力の向上を図るため、すべての教員は積極的に授業改善を進め、「わかる授業」「興味を喚起する授業」を行う。</li> <li>・生徒の進路希望を実現するため、あらゆる教育活動をキャリア教育の視点で捉え、就職・進学だけでなく、その先の社会活動を見通した組織的な進路指導をすすめる。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に提供する学習内容を充実し、学力向上につなげるため、プロジェクト学習やアクティブ・ラーニング等の主体的な学習活動の研究を行い、全教職員が連携して授業改善に努める。</li> <li>・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、組織の目的を共有する場を設けるとともに、組織の業務内容を見直し、過重労働の削減等に取り組む。</li> <li>・不祥事等を絶対起こさないことで、より一層地域に信頼され必要とされる学校となるよう全教職員が日々実践していく。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
----	---------	----	----

<p>学習指導の 充実</p> <p>(教務)</p>	<p><b>(1)生徒が主体となるような授業を実践</b> 【活動指標】 わくわく農林塾を農業・家庭学科各コース2回以上実施。 【成果指標】 生徒への事後アンケートにより自分の成長を感じたという 回答85%以上</p> <p><b>(2)生徒による授業評価を実施</b> 【活動指標】 生徒へのアンケートにより授業満足度を把握 【成果指標】 授業がわかりやすいという回答85%以上</p>	<p>(1) 【活動指標】 コロナ禍のため、植物コース4回、 土木・機械コース2回実施 【成果指標】 93.3%</p> <p>(2) 【活動指標】 生徒へのアンケートを実施 【成果指標】 1年生 86.3% 2年生 79.1% 3年生 86.2%</p>	
<p>キャリア教育 の充実</p> <p>(進路)</p>	<p><b>(1)進路ガイダンスを充実させる</b> 【活動指標】 3年生3回、1・2年生各2回 【成果指標】 生徒満足度95%以上の維持</p> <p><b>(2)生徒が主体的に進路を選択し、実現させる力を養う</b> 【活動指標】 生徒の主体性の涵養や自己理解の深化に向けて、インターンシップや担任面談、進路ガイダンス等を活用するとともに、進路実現に繋がる、面接や履歴書等の指導を充実させる。 【成果指標】 就職内定者数(率)年内95%以上</p>	<p>(1)新型コロナウイルスの影響で中止になったガイダンスの代替措置を行い、進路ガイダンスは指標を満たす実施ができる見込である。学習習慣の定着、基礎学力の向上、進路選択、進路決定、内定後等に繋がる指導を行った。進路ガイダンスは継続中であり、満足度95%以上を目指している。</p> <p>(2)各クラス・各学科・コース単位で、インターンシップや現場見学会、出前授業、講演会などを感染拡大防止に配慮しつつ、できる限り行うとともに、面接や履歴書などの指導を行い、就職内定率は年内 97.4%となった。</p>	
<p>生徒指導の 充実</p> <p>(生徒指導)</p>	<p><b>(1)服装・頭髪等の身だしなみを整える</b> 【活動指標】 頭髪・服装指導 年間8回実施 【成果指標】 頭髪再指導が10%以内&lt;年度最終&gt;</p> <p><b>(2)生徒に規則正しい生活習慣を身につけさせる</b> 【活動指標】 遅刻カウンター・遅刻カードの活用・生活習慣の改善を目的とした特別指導・生徒会主催の朝のあいさつ運動の実施 【成果指標】 学校全体の遅刻の総数を700以下(全校生徒数以下)</p>	<p>(1)頭髪・服装指導 年間7回実施(1月)3年生以外は8回実施することができた。頭髪再指導は、1年63人、2年83人、3年101人、合計247人で約5%であった。再指導の多くは長さの指導であった。</p> <p>(2)遅刻の総数は815回(1年273回、2年269回、3年273回)目標の700以下を達成することができなかった。4・5月が休校であったのに多いのは、気の緩みだと思われる。</p>	
<p>保健管理の 充実</p> <p>(保健)</p>	<p><b>(1)健康管理を充実させる</b> 【活動指標】 生徒自身が健康状態を把握し、健康の保持増進の意識を高め、健康管理に対する指導を行う。 【成果指標】 すべての検診受診100%</p>	<p>(1)すべての検診において、長期欠席者を除き、全員受診することができた。また要精密検査の中で最も重要な心臓検診、腎臓検診対象生徒については、専門機関への受診率が100%であり、健康管理に対する意識付けはできた。</p>	

	<p><b>(2)保健教育を充実する</b>  <b>【活動指標】</b>  保健室での相談活動を中心に行い、スクールカウンセラーや発達障がい支援員と連携する。  スクールカウンセラーによる相談 5 時間×32 回実施  発達障がい支援員を月 6 時間確保</p> <p><b>【成果指標】</b>  生徒にアンケートの満足度 70%</p> <p><b>(3)命を大切にすることを育む教育活動を充実させる</b>  <b>【活動指標】</b>  生徒向け研修会等を学年別で年間 2 回実施</p> <p><b>【成果指標】</b>  満足度 80%</p>	<p>(2)保健室の健康相談とスクールカウンセラーや発達障がい支援員の活用により相談活動を充実できた。  友人関係や家庭状況、学校生活など不安を抱えている生徒もいるため継続した支援をする必要がある。生徒によるアンケートでも「困ったことや心配事等を先生や友達に相談できる」と80%以上の生徒が答えている。</p> <p>(3)性教育講話・薬物乱用防止講座を行うことで保健指導を充実させた。生徒の90%は内容に満足しており感想にも授業では聞けないことを詳しく説明してもらって良かった。必要な知識なのでこれから役に立てていきたいとの意見が多かった。</p>	
--	---	---	--

**改善課題**

○今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、学校内外での行事等について、様々な面で制限がわかり、日程変更等、年間計画変更を行って対応してきた。地域連携や「わくわく農林塾」については、できるコースのみ実施した。次年度においてもウィズコロナの中、学校行事を計画的に進めていく必要がある。

○今年度は、4月5日が臨時休業であったにも関わらず、遅刻の総数が、815回(1年273回、2年269回、3年273回)であり、目標の700以下を達成することができなかった。継続した指導が必要である。

○全職員の協力体制もあり、昨年度からの取組を継続し、就職内定率は年内 97.4%となった。今年度はコロナ禍の影響はあったものの希望者全員が将来へ向けての希望の道を選ぶことができた。来年度も継続的に生徒の希望や保護者の思いを聞きながら生徒自らの進路決定へと結びつけていきたい。

○目標を持って学習や活動に取り組んでいる生徒は、全体の 78.2%で、昨年度(78.4%)と変わらないが、2年生は 74.2%(昨年度 79.%)に減少している。コロナ禍でストレスや不安を感じている生徒も少なからずいると思われることから、生徒に寄り添い、生徒が自己成長を感じることができるようキャリア教育を充実させる。

**(2) 学校運営等**

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組み	<p><b>(1) 教職員の各種研修会を実施し、指導力向上に努める(コンプライアンス、働き方改革推進など含む)</b>  <b>【活動指標】</b>  各学期1回、参加率70%以上</p> <p><b>【成果指標】</b>  参加者の満足度80%以上</p>	<p>2 学期  ・合理的配慮について  参加率 60% 満足度 84%</p> <p>・いじめ防止研修  3月に延期</p> <p>3 学期  ・ICT の活用研修実施  参加率 81% 満足度 83%</p>	◎
チームワークの向上・意欲の増進	<p><b>(1) 分掌、学科、コース、学年間の連携、情報交換、情報共有に努める</b>  <b>【活動指標】</b>  教職員アンケートにより職員の満足度を把握する</p> <p><b>【成果指標】</b>  学校経営への参画意欲ありという回答 70%以上</p>	<p>学校運営に参加していると思うと回答した職員 60%(昨年度 76.9%)</p>	

情報提供による信頼の構築	<p><b>(1) 情報発信を積極的に行う。</b></p> <p>【活動指標】 学校HPの充実 学校の PR(新聞報道、テレビ)</p> <p>【成果指標】 報道 30 件以上・月 3 回以上の更新</p>	<p>報道件数 新聞報道16件 テレビ報道 数回 月3回以上の HP 更新はなされた</p>	
保護者・地域との連携	<p><b>(1) わくわく農林塾の実施</b></p> <p>【活動指標】 生徒へのアンケートにより満足度を把握する。</p> <p>【成果指標】 参加してよかったという回答 85%以上</p>	<p>コロナ禍のため、植物コース・土木、機械コースが実施</p>	
働きやすい職場環境づくり	<p><b>(1) 会議の回数削減や時間短縮</b></p> <p>【活動指標】 アンケートにより満足度を把握する。</p> <p>【成果指標】 取り組んでいるという回答70%以上 全ての会議の80%が60分以内で終了</p> <p><b>(2) 過重労働改善への取組</b></p> <p>【活動指標】 原則として、毎月第1第3月曜日を定時退校・ノー部活デーとする。各定期考査で1日(半日単位も可)以上の年休を取得する。学校閉校日を設定する。 各定期考査中をノー残業デーとする。</p> <p>【成果指標】 ・年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数を 0 人 ・1 人当たりの月平均時間外労働時間を 30 時間以下にする。 ・一人当たりの年平均休暇取得の目標 15 日以上取得。 ・部活動の休養日を週 1 日設定。95%以上 ・定時退校期間中の定時退校者数の割合 期間中の 80%以上 ・学校閉校日年 2 日設定(8月14日、1月4日)</p>	<p>(1)60 分以内で終了した会議の割合 80.1%(165/205・3/15 時点)</p> <p>(2) ・年間360時間を超える時間外労働者数7名 ・月45時間を超える時間外労働者数延べ57名(実人数45時間超17名、80時間超2名・2月末時点) ・一人当たりの月平均時間外労働時間は、4月から2月まで、12.0 時間(R1 年度は 22.7 時間) ・一人当たりの年平均休暇取得日数 18.5 日・3/15 時点(R1 年度は 3 月末で 19.0 日) ・部活動休養日 100% ・定時退校者数 91% ・学校閉校日 100%</p>	
信頼される学校づくり	<p><b>(1) 毎週の朝の全校集会を利用した生徒および教職員への意識啓発</b></p> <p>【活動指標】 校長が毎週の全校集会で生徒に様々な視点から講話を行う。</p> <p>【成果指標】 講話実施率100%</p>	<p>コロナウイルス感染防止対策のため今年度は全校生徒の集会中止。 1 学期入学式、始業式は全体集会を行った。1 学期終業式、2 学期始業式、終業式、3 学期始業式毎に校内放送で全校生徒に仲間の大切さや共に生きること、他の人に思いやりの心を持つこと等の講話を進めてきた。</p>	

#### 改善課題

○情報発信においては、コロナ禍で実践が少ない中、報道件数(新聞報道)16件、またテレビで本校の様子が数回紹介された。学校の PR においては、月3回以上の HP 更新はなされたが、全コースの継続的な紹介が必要である。

○今年度入学者選抜に引き続き、本校への志願者数が減少している。志願者数減少に歯止めをかけるため、さらなる特色化・魅力化を図り、情報発信することで志願者開拓を行う。

○総勤務時間は、ここ数年縮減傾向にあるが、業務の平準化や部活動顧問の負担軽減を図り、多忙化の解消を図る必要がある。

## 5 学校関係者評価

明らかになった  
改善課題と次へ  
の取組方向

### ○ 学習指導の充実

#### (1) 生徒が主体となる授業実践

わくわく農林塾を各コース2回以上実施することを活動指標に掲げたが、新型コロナ感染症のため活動が制限されてしまい、植物コース4回、土木・機械コース4回の実施のみにとどまった。感染症予防措置のため活動指標は未達であるが、最大限可能な取組を行っていただいたと考える。

わくわく農林塾で、小学生にドローン体験をさせた際、講師を務めた3年生の「子どもに教えるには、細かく具体的に伝えなければならず、違う学びがあった」という言葉には、「主体的な深い学び」を成就したことがはっきりと表れている。そのみならず、この言葉は、教師にとっても示唆されるものが大きい。

生徒の事後アンケートで「自分の成長を感じた」という回答が85%以上得られることを成果指標としたが、このコロナ禍において、それをはるかに上回る93.3%の回答が得られたことを特筆したい。次年度は、本年度の成果を引継ぎ、ウィズ・コロナ時代における「主体的な学びの実践」を実現するべく取り組んでいただきたい。

#### (2) 授業評価による学びの実態把握

「授業が分かりやすい」という回答を85%以上得ることを活動指標として取り組んでいただいた。1・3年生は、86.3%・86.2%と、それを達成することができた。2年生においては、79.1%と未達成となってしまった。しかし、決して悲観するものではない。このコロナ禍にあって、3つの学年とも高い数値が得られたからである。数値の未達については、取り立てるべきものではないものの、特に、次年度3年生は、その学びの状況をモニタリングしつつ進路実現を果たしていけば、改善が図られると確信する。

### ○ キャリア教育

#### (1) 進路ガイダンスの充実

今年度は、年度当初からCOVID-19の感染拡大対策のための休校措置がなされ、予定していたガイダンスが実施できなかった。しかし、その代替措置を精力的に実施していただき、活動指標としての1・2年各2回、3年3回の実施、および成果指標としての生徒満足度95%を達成することができた。次年度も、こうした取り組みを継続していただきたい。

#### (2) 生徒の主体的進路選択、進路実現

キャリア教育として感染症予防策をとりながら、インターンシップ、現場見学会、出前授業、講演会など、生徒の進路への意識を高めたり、進路選択のヒントが得られたりするための取組を行っていただいた。進路希望の達成率が、年度末には100%となった。本年度はコロナ禍にあって、生徒の就職状況が危惧されたが、この上ない成果を上げていただいた。次年度もコロナ不況等、厳しい状況が懸念されるが、継続して取り組んでいただきたい。

### ○ 生徒指導の充実

#### (1) 服装・頭髪等の指導実践

ともすれば、頭髪・服装指導は、生徒と指導者の間で意思の齟齬が起こりがちとなる。しかし、久居農林高校では、両者が十分納得した上で、適切な生徒指導が行われていると感じる。その理由は、久居農林高校の生徒指導の最大の特徴にある。それは、「生徒が進路決定の際の面接に戸惑ったり不利になったりすることがないように」という指導理念に基づいていることである。これは、指導の拠り所として「生徒にとって何が良いか」が最優先されていることの証であり、他校・他者にも誇れるものである。ジェンダーフリーの考え方を取り入れ、制服に関する校則の見直しを、スピード感をもって行っていただいた。現在行っている生徒の人権を重視した温かい指導を、次年度も継続していただきたい。

#### (2) 規律正しい生活習慣

あいさつ運動を実践する等、生徒が、毎日気持ちよく学びに向かえるよう取り組んでいただいた。その一環として、遅刻の総数を700以下に抑えることを成果指標に掲げた。遅刻については、年度末現在で815であり、残念ながら成果指標を達成できなかった。これは、COVID-19対策として、全校集会を行うことができず、意識づけの徹底が行えなかったことが一因と考えられる。これは、本年度の特殊時事情でもあり、

致し方ないことと考える。

学校関係者評価委員会でも、企業での人事担当をなさっている委員から、出席状況が良好なことは、採用の大きな要素になることをご教示いただいた。久居農林高校の生徒指導の「強み」は、「生徒のために」という指導方針にある。次年度も、その強みを発揮して、生徒自らが「生活習慣を身に着けることは、一にも二にも、自分自身の未来のためである」ということを自覚させる指導を継続していただきたい。家庭との連携や進路指導の側面からも生徒を支援し、取り組みを行ってほしい。

#### ○ 保健管理の充実

##### (1) 健康管理

保健部と生徒、保護者、担任の4者が緊密に連携し、コロナ禍の困難な中であつたが、極めて良好な検診受診率を達することができた。また、精密検査の要する診断があつた生徒に対しては、専門機関の受診率を100%にすることができた。高い健康意識を生徒・保護者と共有することができたと考える。

##### (2) 保健教育

保健室での相談活動を中心に取り組んでいただいた。カウンセラーや発達障害支援員も活用して、友人関係や家庭状況、学校生活に不安を抱えている生徒を支援することができた。次年度も継続して、保健部には、学校における「セーフティー・ネット」としての重要な役割を担って頂きたい。

##### (3) 命を大切にすする心

性教育講話、薬物乱用防止講座などを行い、保健指導を充実していただいた。次年度も、取り組みを継続してもらいたい。

#### ○ 学校運営

##### (1) 教員の指導力向上

教員の指導力向上のために、本年度は「合理的配慮」「いじめ防止」「ICT活用」の研修会を実施し、それを指導に活用することができた。参加率、満足度ともほぼ指標に届く成果を得た。放課後の用務等で参加が困難な職員もあるため、それらの方には、研修会内容の還流を図ることが望まれる。

##### (2) 職員間の連携と情報交換・情報共有

「学校運営に参加していると思う」と回答する職員が60%と、数値的には低い結果が出ている（昨年度は76.9%）。「参加意識」については、個人により判断基準の差があると考えられるので、より実態を把握しやすい指標が得られるよう、この設問を改定してはどうかと考える。

##### (3) 情報発信、保護者・地域との連携

コロナ禍にあつて、他者とつながる取り組みが極端に減つたが、新聞報道される取り組みも多くあつた。ホームページも常時充実するよう取り組まれ、情報発信に努めている。教育の充実と進路指導の実績も高く、わくわく農林塾を筆頭とした地域連携の成果も現れ、地域からの評価が定着している。その成果は着実に表れ、久居農林高校を志願する中学校生徒数は、概ね良好である。

しかし、令和3年度入試では、後期選抜時点で、残念ながら定員を割った。少子化の影響もあり、教育活動の充実と情報発信だけでは志望倍率の確保は望めない。生徒が急減する近い将来に向けて、構造改革的な対策を講じていく必要がある。

##### (4) 働きやすい職場環境

慢性的な過重労働が問題となっていたが、COVID-19による自粛等もあり、令和2年度は、数値の上で改善した。コロナ禍を契機として、重要業務と比較的重要でない業務が見えたのではなかろうか。学校運営業務のスクラップ&ビルドを徹底していくことで、より働く人にやさしい職場が実現できると考える。次年度以降の課題としていただきたい。

##### (5) 信頼される学校づくり

全校集会での意識啓発を目指したが、全校集会の中止を余儀なくされた。そこで、校内放送を活用しての式典や集会を行い、思いやりをもつこと、共生の精神等と呼び掛けていただいた。



## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>○ウイズコロナの時代の中、感染予防を徹底しつつ、計画的に教育活動を進める。</li><li>○コロナ不況で求人等厳しい状況が予想される中、計画的にキャリア教育を進め、生徒の進路意識を高め、進路実現を図る。</li><li>○今年度評価いただいた取組については継続し、さらなる充実化を図る。</li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>○生徒急減期に向けて、さらなる特色化を進めるとともに、中学生が本校の教育内容について、より理解を深めることができるよう情報発信に力をいれる。</li><li>○今後の本校の学科・コースの在り方および校内体制について議論し、検討する。</li><li>○行事・業務等のスクラップ&amp;ビルドを行うことで、多忙感を解消し、生徒と向き合う時間を確保するとともに勤務時間の縮減を図る。</li></ul>